

科目名	写真映像論			科目コード	1504
開講学科	写真学科	単位数	2	形態	講義
教員名	小川幸三				
授業の目的及びテーマ					
<p>はじめに</p> <p>授業の目的及びテーマ自分の作品をもっと魅力的に見せよう！写真映像論は「メディアのあらたなる発表の場づくり」のプランニングを研究する又、鑑賞者も作家になる。コラボレーションとしたプランから、新しい表現をつくりだしたい。そういう感じに触れる意義があり、そのプランそのものが美しいと感じられる。日々に見出す一瞬のひらめきは、新たな着想力を生み出しす写真映像から発する「もの」や「こと」が求める未来へ試みるビジネスプランとする。</p>					
授業概要					
<p>写真映像論は、自己作品の展示計画を基に地域社会の新しい価値として生み出しを考える。精神的な豊かさを支えるアートが発想力となる。社会の課題になる。写真映像で地域とのつながりを交わす場を探しがこの科目の目的となる。</p> <p>写真の基礎である記録性と伝達性の実践活動で、「見えるもの・読めるもの」としての理論と発表提示の科目とする。表現は単に美しいだけではない、対話又双方向によるコミュニケーションにあり、既存のギャラリーから「地域社会とつながる場」で写真の未来を描けるのだろうか？</p> <p>またその先の時代に、写真はどのような役割を果たすのだろうか？写真で何を語れるのか考えたい。「ものは連鎖されて語る」あなたの世界を近隣で開催させたい思いを聞かせてください。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回：写真表現の今後の展開について。</p> <p>第 2 回：現代アートと今後の写真との関係について。</p> <p>第 3 回：パブリックアートにおける写真展開の実情について。</p> <p>第 4 回：なぜ、アートに今、写真が着目されているのかについて。</p> <p>第 5 回：蓄積された写真の痕跡と文章記録について。</p> <p>第 6 回：メディアムと知覚の探求について。</p> <p>第 7 回：ファクションとフィクションがどのように自分が対面しているかについて。</p> <p>第 8 回：人の行動は文化、社会との関わり合って表現が拓かれてきたことについて。</p> <p>第 9 回：自分の物差しと他人の物差しの基準について。</p> <p>第 10 回：現代アートは創作者だけではなく、鑑賞者にも想像力を求められるについて。</p> <p>第 11 回：現代社会はアクションが更新している。これ見て、来て、作って等の受け入れ方について。</p> <p>第 12 回：楽しいと愉しむとの違いについて。</p> <p>第 13 回：虚構のなかにあるコンセプチュアルアートについて。</p> <p>第 14 回：アウラが生み出す微妙な感覚について。</p> <p>第 15 回：人生は出会いにあり、これは創造力となる。この出会いと偶然の巡りについて。</p>					
テキスト	「ひらく美術－地域と人間のつながりを取り戻す」北川プラム著（ちくま新書）		参考文献		
評価方法：					
レポート形式。A4 サイズに 2,000 字数位で作成してください。課題内容の理解と将来に向けた展望（所見）の記載等が評価対象となる。					

課題提出

課題1作

課題概要

自らのあらたなる表現のきっかけとなる展示会場や展示プランを記載ください。

次の①・②いずれかで2,000字数以上で記載ください。

- ①各地域で開催されている「アートと地域文化」「アート・フェスティバル」状況についてまとめてください。そのなかで参加し得るかの環境・事情も合わせ、写真展示プランとして(一ヶ所)レポートにまとめてください。参加であればテーマと規模・パンフレット類など記載する。
又参加・予定に対しては加点する。
- ②住まいする近隣地域での展覧会状況(ラウンジ含む)と展示プラン(一ヶ所)をレポートにまとめてください。参加であればテーマと規模・パンフレット類なども記載する。又参加・予定に対しては加点する。

参考資料

①地域アート

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭、愛知トリエンナーレ、山形ビエンナーレ、岡山芸術交流、さいたまトリエンナーレなどのパブリックアート。パブリックアートというのは美術館ではない場所(街中や公園、道路など)に設置作品をいう。

②大阪の近隣地域アート展

- ・御所青果市場跡、宇陀市の旧宇太小学校、天川村の旧天川西小学校のアートプロジェクト。
- ・近隣のラウンジ・アートスペースにおける展示場。